

平成 30 年度 第 2 回紀の川市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会 議事録要旨

【開催日時】 平成 30 年 8 月 20 日（月） 14 時 55 分から 16 時 10 分まで

【開催場所】 紀の川市役所 本庁 4 階 402 中会議室

【出席者】

○紀の川市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会（委員 8 名内 7 名出席）

野村委員（紀の川市立地企業連絡協議会 会長）

中谷委員（和歌山県那賀振興局地域振興部企画産業課 課長）

仁藤委員（近畿大学生物理工学部地域交流センター センター長）

前島委員（和歌山公共職業安定所 所長）

中村委員（株式会社和歌山放送 代表取締役社長）

林委員（紀の里農業協同組合総合企画部 部長）

恩賀委員（紀の川市自治連絡協議会 会長）

○事務局（企画部 企画経営課）（4 名）

今城企画部長、角企画部次長兼課長、西川、吉田

○傍聴人（0 名）

【会議の概要】

1. 開会（14：55）（司会：角次長）

2. 会長挨拶

紀の川市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会会長 仁藤委員より挨拶

3. 議題

○司会

審議会設置要綱第 6 条 第 1 項の規定により、仁藤会長を議長として選出。

○議長

審議会設置要綱第 6 条第 2 項「会議を公開」するために簡潔に取りまとめた議事録と写真の公開並びに音声録音の承諾。

委員の過半数以上が出席しているため、会議が成立していることを報告。

議題 i) 「紀の川市まち・ひと・しごと創生総合戦略の修正」について

先日承認いただいた、総合戦略について資料①のとおり修正があったので報告。

【質疑】 なし

議題 ii) 「紀の川市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗管理」について

資料②に基づき、基本目標ごとに説明

【質疑】

委員：かつらぎ町は京奈和自動車道のインターに、道の駅を設置しているが紀の川市はどうなのか。

事務局：京奈自動車道の計画時からかつらぎ町のインターが計画されていたと聞いている。

委員：ふるさと納税の件数は、H27 から H28 にかけて増えているが、H29 については減少している、全体的には増えていると思う。県内で言えば、湯浅町が飛躍的に伸びている、また、大阪の泉南市は全国トップの納税額で 130 億円もの納税があったと聞いているが、紀の川市の納税額は？

事務局：6,000 万円位です。

委員：それらの団体との違いは何かあるのですか。

事務局：換金性の高いポイントや日常生活に使用する商品の需要が高い様に思われる。紀の川市のフルーツは嗜好品・贈答品に近いので、一般消費者への訴求力は少し低い様に思う。

委員：近隣市町村で 100 億円以上の納税があり、紀の川市の納税額が数千万円ならば桁が違っている。今後需要が高い商品をラインナップしていくのか、それとも現状のままいくのか等の紀の川市のふるさと納税に対する今後の方針は。

事務局：現状のままいく予定をしています。

委員：近大との連携が良く出てくるのだが、具体的にどの様な連携があるのか。

事務局：現状は市民講座共催や教育分野での連携はあるが、産業分野での連携が進んでいない。近畿大学がどの様な支援を必要としているのか、どの様な分野を研究しているのかを今年度で調査して、地域産業と結び付けたい。

委員：紀の川市は観光に力を入れ、「食べる」「見る」の事業は多く展開している。「考える」視点として「青洲の里」「国分寺」「粉河寺」等の文化財についての観光での活用等は検討できないか。

事務局：青洲の里については、今後新しい取組を進めていきます。

委員：フルーツの活用で県の出先機関等の意見を聞くことは重要です。市内にはかき・もも研究所や農業試験場がある。農協とそれらの研究所等との関係はどうか。

委員：かき・もも研究所については、研究内容を営農指導員が教えてもらったり、半年ほど営農指導員が行ったりしている。

農業試験場については、いちごの水耕栽培等を投げかけてはいるが、中々進まない。

委員：就農者が減るのはさびしいので、是非儲かる農業、攻める農業を進めて欲しい。

委員：農業と観光については、有田川町は体験型農業を狙って行っている。かつらぎ町はカレンダーを作成して、年中取れる等の工夫をしている。それらの地域では、閑空に近く、SNSも発展しているので、リピーターで個人の外国人客が来ているとも聞いている。農業として農産物を生産するのは原則だが、体験型農業の活用等も探っていく必要があるのではと思う。となりのかつらぎ町とは、ライバルとして競争するのも良いが、地域として特色を出すために、協調していくのも必要なのでは無いかと考える。

事務局：紀の川市でも、観光農園等を行っているところはあるが、大々的には展開出来ない様に思う。また、ふるさと納税のメニューとして体験型農業を入れる事も可能なので、検討する必要がある。

議題 iii) 「紀の川市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議結果」について

本部長への答申について、資料③に基づき説明。

【質疑】 なし

議題 iv) 「平成 32 年度以降の総合戦略」について

資料④に基づき、平成 32 年度以降の総合戦略の動向について説明し、紀の川市の人口ビジョン・総合戦略についても改定を考えている旨を報告。

【質疑】 なし

4. その他

会長：まだ少し時間がありますので、各委員からそれぞれの社会状況等についてお話いただければと思います。

委員：ハローワークの現状ですが、今年度はかなりの売り手市場になっている。今日も和歌山市内で就職フェアを行っているが、企業は100社位来ているが、参加者は200人位で、来ている学生や求職者が少ない。これは、就職活動が順調に進んでいると見ることもできるが、一方で中小企業にとっては人を集めるのが厳しい状況になっているのではないかと思う。人集めはいかに情報発信していくのが重要になるので、県内の企業も積極的に情報発信をしなければ、人が来てくれない。非常に厳しい状況になっています。

委員：企業の立場から言えば、去年より今年、今年より来年がもっと人手不足が厳しくなると考えている。国・県・紀の川市の人口が減少しており、特に新しい働き手の若年層が増えない。中小の事業者として人手を確保するのが大変な状況になっています。国は2019年の4月から新たな外国人雇用の仕組みを作ろうとしているようです。人手不足が深刻なのは大都市ではなく地方都市になるので、地方都市においては、外国人の活用を本格的に考える時代が来ている。産業分野・農業分野等の様々な分野で、外国人をいかに活用して、地域経済に寄与していくのが重要だと思うので、総合戦略が続くのであれば、次の総合戦略にはその辺りが入る様に検討して欲しい。

今、企業誘致は京奈和自動車道の関係で多く来ているとは思いますが、紀の川市で人が集まらないといった状況になると、現在、紀の川市に来ている事業者であっても、事業拡大等が見込めなければ、今後どの様になるのかは分からないので、人手不足は真剣に考える必要がある。

紀の川市として農業主体・フルーツ主体でまちおこしをやっていく中で、成果物を輸出するだけではなく、担い手を輸入することも考える必要がある。是非近畿大学生物理工学部に、留学生をたくさん呼んでいただいて、近畿大学の留学生パワーを作り出せばいい循環になるのではと思う。東南アジアの優秀な若者は日本でいろんな事を学びたい人がいて、日本の先進的な農業について、学んで技術を持ち帰ったり、紀の川市に定着・定住する等様々な可能性がある所以、その様な点についても検討していただきたい。

委員：近畿大学生物理工学部の卒業生は何人位で和歌山県に就職するのは何人位ですか。

委員：卒業生は 450 人位でそのうち 100 人位は県内に就職している。県内出身者は 120 人位なので、県内出身者より少し少ない人数が県内に就職しています。大学内での話にはなるが、就職状況はかなり良く、企業からの問い合わせも多い。

会長：多くの委員の意見が聞けましたありがとうございました。最後に副会長一言お願いします。

紀の川市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会副会長 野村委員より挨拶

私は住んでいるのは、和歌山市だが仕事の関係で紀の川市に毎日来ている。紀の川市は環境も良いし、住みやすく、とても良いまちだと思う。

若い人が減少しているが、それを仕方が無いと捉えるのではなく、もっと魅力発信を積極的に行い、若年層の数が減少から現状維持・増加に転じるようにし、人を集め経済を活性化するのが大事だと思います。

今は、AI とかロボットとか言われているが、コンピュータなので、経済活動に寄与しません。人が増えて経済活動を行うことが地域活性化につながるので、そのために何をしていくかが重要です。

京奈和自動車道が出来て、交通の便が良くなりました。また、紀の川市には住みやすさ・人の良さがありますので、その様な点を積極的に PR してもっともっと人が集まる市になればと思います。審議会の皆様におかれましても、今後とも知恵を出していただくなどのご協力をお願いいたします。

5. 閉会 (16 : 10)